

福岡市新世代環境都市ビジョン

～輝く快適環境都市、人と自然とアジアによかまち・ふくおか～

福岡市新世代環境都市ビジョン策定の趣旨

福岡市を取り巻く環境問題は、ごみ等の身近なものから、地球温暖化や黄砂影響など地球規模にまで広がり、さらに、東日本大震災により関心が高まるエネルギー問題も含め、複雑・多様化しています。

本ビジョンは、複雑・多様化する環境問題とこれに関連する社会・経済の情勢も含め、長期的展望に立った環境都市づくりの道標を定めるものです。

社会・経済と環境の統合的向上による新たな価値の創出を目指して、2050年の将来の姿を描いています。

I. 外的環境～福岡市を取り巻く脅威～

2050年の福岡市の将来像を描くため、既存知見等から2050年ごろの福岡市を取り巻く脅威を示しています。

人口構造

日本の人口は9,500万人に減少しますが、福岡市は2035年まで増加し、その後2050年に157万人となります。また、高齢化も着実に進行します。

経済的地位

2050年、GDPベースでは、日本は中国、米国、インドから大きく引き離され、相対的な地位は低下していきます。

エネルギー、食料、水資源

世界人口の増加、砂漠化や地球温暖化、環境汚染等により、エネルギー・食料・水資源の争奪戦が生じる懸念があります。

地域社会の活力

高齢化や人口減少、過疎地域の増加により、地域社会の活力の維持・向上が課題となっている可能性があります。

地球温暖化

地球温暖化の影響により異常気象が増えると、豪雨や熱帯夜が増加し、洪水や熱中症のリスクが高まる懸念があります。

自然生態系

世界では種の絶滅が急速に進行しており、地球温暖化による気候変動で海水面が上昇した場合には、博多湾を中心とした沿岸生態系への影響なども懸念されます。

II. 社会的要請～福岡市に求められること～

2050年にむけて、福岡市はどのような対応が社会から求められるのかを、整理しています。

低炭素

エネルギーの需要・供給両面からの温室効果ガス削減に向け、自律分散型エネルギー社会の構築が求められています。

生物多様性

愛知目標の達成に向けて、福岡市も多様な主体と連携した戦略的取組が必要です。

資源循環

周辺都市も含めた広域での“地域循環圏”構築が求められています。

気候変動

回避できない温暖化の影響に対して、自治体レベルでも適応策の実施が必要です。



人づくり

アジアとの近接性も生かして、国際化に対応できる人材の育成が求められています。

災害に強いまちづくり

東日本大震災後、災害に強い地域づくりが求められています。

経済

成長著しいアジア経済と関係を強化し、日本の成長エンジンとなることが期待されます。

III. 現状把握～福岡市の強み・弱み～

2050年にむけて環境都市づくりを進めていく上での、福岡市の伸ばすべき強みと、克服すべき弱みを示し、これらの強み・弱みをどの分野の将来像で生かしていくか、といった関係性を示しています。

- アイランドシティなど先進的な低炭素のモデル地区
- 建替え時期を迎えた建物が多く、CO2削減には絶好の機会
- △ 自動車依存が高く、運輸部門のCO2排出量が多い

低炭素分野

- 博多湾や脊振山など、近郊や市内に豊かで多様な自然がある
- △ 食料、水など、資源の多くを外部（市外）に依存
- △ 都心を中心にみどりが少なく身近なみどりへの満足度は低い

生物多様性分野

- 節水型都市づくりにより、一人当たりの水使用量は大幅に少ない
- ごみの埋め立て「福岡方式」の海外への技術移転が進む

資源循環分野

- △ 黄砂やヒートアイランド現象などが顕在化
- △ 都市型水害のリスクが高まる

環境の保全と気候変動への適応分野

- 若者、大学、学生が多く、人的資源が豊富
- アジアと福岡をつなげる環境ビジネスの芽となる技術を保有
- △ 理系学生の地元九州への就職が少なく受け皿不足の可能性も

人づくり分野

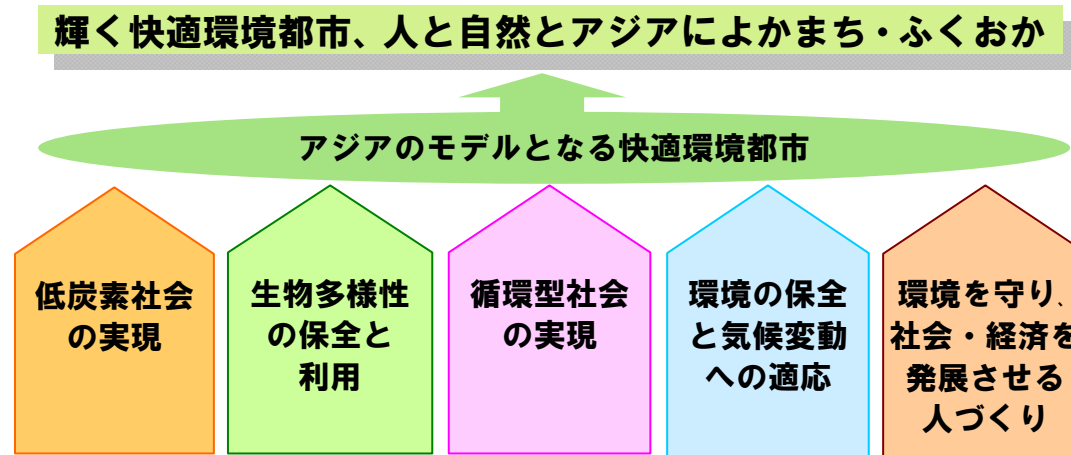
※赤字・・・強み、青字・・・弱み

IV. 2050年の福岡市(新世代環境都市)の将来像

2050年にむけて福岡市では、地球温暖化対策やエネルギー対策による低炭素社会を実現すると共に、ごみなどの資源を地域で循環させる循環型社会を構築し、同時に生物多様性の保全と持続可能な利用を進めます。また、長期的な視点から気候変動に適応する社会を実現します。

また、これらの取組を支える環境を守り、社会・経済を発展させる人づくりを実施していきます。

そして、市民や来訪者が快適な環境を体感でき、地域の自然や生物の営みが守られた都市を実現します。こうした都市づくりを九州のみならずアジア各都市のモデルとして、情報発信することにより、快適環境都市としての福岡市の存在感を高めます。



将来像を実現する過程では、様々な変革が必要となり、その結果、都市の成長にも資する「新しい価値」が生まれると考えています。

**新しい価値って
なんだろう？**



環境都市づくりを学べる
まちになり、都市のグロ
ーバル化が進みアジアの
環境課題解決へ貢献！



豊かな海が守られることによ
り、福岡独自の食文化が発達、
商業・観光・産業などが活性化！



街中の省エネ化とみどりの
増加により、ヒートアイ
ランド現象が緩和、憩
の場が生まれ、都市の快
適性向上！

輝く快適環境都市、人と自然とアジアによかまち・ふくおか

■低炭素分野

「創エネ・省エネ・蓄エネ」によるエネルギー地産地消のまち・ふくおか

(方向性)

1. 再生可能エネルギーなどが大量に導入され、活用されたまち
2. 省エネルギー型のまち
3. 自律分散型のエネルギーシステムが整備されたまち
4. 低炭素型交通網が構築されたまち

■生物多様性分野

豊かな自然と共生し、その恵みに支えられ、命をつなぐ未来都市・ふくおか

(方向性)

1. 多様な生き物や自然、文化が守られた海辺環境
2. 生き物とみどりがあふれるまちなかの実現
3. 豊かで多様な里地里山や森林、河川のあるまち
4. 陸・海からの恵みを持続的に利用し、食文化が継承されたまち

■資源循環分野

資源を大事に、繰り返し使う循環のまち・ふくおか

(方向性)

1. “ものを大切に”精神・文化が次世代に受け継がれたまち
2. ごみの再資源化・エネルギー利用で繰り返し使うまち

■環境保全・気候変動適応分野

健康で快適なまち・ふくおか

(方向性)

1. 気候変動への適応に先行的に取り組む地域社会
2. 暮らしの安全・安心に関わる課題はほぼ克服した快適なまち

■人づくり分野

環境を守り社会・経済を発展させるアジアの人材を育てるまち・ふくおか

(方向性)

1. 環境を守る人づくりで社会・経済が発展するまち
2. 環境都市づくりを学べるまち
3. 環境都市づくりの人材が国内外に貢献するまち

V. 将来像実現にむけた取組みの方向性と重点分野

2050年の将来像実現に向けた基本的方向として取組みの「方向性」を、また概ね5～10年以内に着手する取組みを「重点分野」として示しています。

さらに、ビジョン本編ではそれぞれの分野でこれら取組みの方向性と重点分野に基づいた2050年までのロードマップを示しています（「福岡市新世代環境都市ビジョン」第6章参照）。

■低炭素分野

- 方向性1;再生可能エネルギーなどが大量に導入され、活用されたまち
 - 重点分野①:市民・事業者に対する各種支援、公共施設への率先導入
- 方向性2;省エネルギー型のまち
 - 重点分野②:建築物への最先端環境技術の導入促進
 - 重点分野③:都心部、地域拠点等における地域エネルギーマネジメント導入支援の検討
 - 重点分野④:CO2排出量や削減目標などを定めた温暖化対策計画書制度の導入検討
- 方向性3;自律分散型のエネルギーシステムが整備されたまち
 - 重点分野⑤:アイランドシティでのモデル的スマートコミュニティの形成
 - 重点分野③:再掲
- 方向性4;低炭素型交通網が構築されたまち
 - 重点分野⑥:FCV(燃料電池車)・EV(電気自動車)等の導入支援の検討



■生物多様性分野

- 方向性1;多様な生き物や自然、文化が守られた海辺環境
 - 重点分野①:海辺の自然と人が共生するエコパークゾーンの実現
 - 重点分野②:多様な主体による里海保全再生モデル(今津干潟)の拡大
 - 重点分野③:野鳥公園の整備検討
- 方向性2;生き物とみどりがあふれるまちなかの実現
 - 重点分野④:緑化地域制度の導入の検討
- 方向性3;豊かで多様な里地里山や森林、河川のあるまち
- 方向性4;陸・海からの恵みを持続的に利用し、食文化が継承されたまち



■資源循環分野

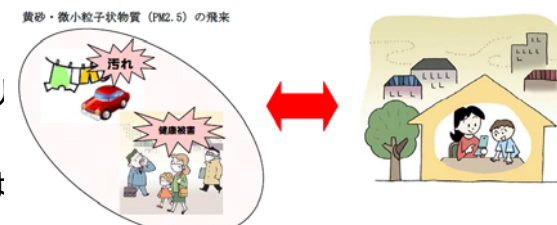
- 方向性1;"ものを大切に"精神・文化が次世代に受け継がれたまち
- 方向性2;ごみの資源化・エネルギー利用で繰り返し使うまち
 - 重点分野①:事業系ごみ資源化推進ファンドの活用
 - 重点分野②:食品残さや紙おむつの資源化の支援



■環境保全・気候変動適応分野

- 方向性1;気候変動への適応に先行的に取り組む地域社会
- 方向性2;暮らしの安全・安心に関わる課題はほぼ克服した快適なまち

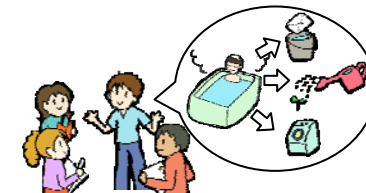
➢ 重点分野①:黄砂・微小粒子状物質(PM2.5)影響対策の推進



■人づくり分野

- 方向性1;環境を守る人づくりで社会・経済が発展するまち
- 方向性2;環境都市づくりを学べるまち
- 方向性3;環境都市づくりの人材が国内外に貢献するまち

➢ 重点分野①:環境に係る都市経営ノウハウのパッケージ化とアジア各都市での普及促進
 ➢ 重点分野②:環境都市づくりに関わる研修・視察受入機能の強化



VI. 将来像実現のための仕組み

将来像を実現するため、以下のような取組みを総合的に展開していきます。

- 多様な主体の役割分担、連携による環境都市づくり

市民

- 環境に関する身近な取組みの実践
- 環境都市づくりへの参画

大学等

- 環境都市づくりを担う人材育成
- 市と連携した環境都市づくりに関する人材の受入

各主体の連携による環境都市づくり

企業

- 事業活動の中で環境都市づくりを実践
- アジア各都市の環境都市づくりに参入

福岡市(行政)

- 各施策・事業において環境都市づくりを推進
- 民間による環境都市づくりの国際展開支援

- ビジョン・プロモーション

「将来像の浸透」、「環境都市としての既存コンテンツの魅力発信」、「『福岡市＝環境都市』としてのブランド構築」を柱として進めていきます。